

日本新聞協会マスコミ倫理想談会全国大会。

分科会 D「戦後60年とメディアの責務」。

於：広島リーガロイヤルホテル 2005. 9. 29

原爆報道の戦後 60 年

広島女学院大学 宇吹 暁（うぶき さとる）

I 日本の核意識（核アレルギー→反核意識）を支える 4 つの柱と時期区分

- 1 平和行政（広島・長崎両市の平和記念式典）、
- 2 継続的な原水爆禁止運動
- 3 原爆報道
- 4 被爆者対策・被爆者運動

第 1 期（1945-54 年）－原爆批判キャンペーン、原爆タブー、平和記念式典＝**平和行政**

第 2 期（1955-63 年）－継続的な**原水爆禁止運動**と**被爆者対策**の登場

第 3 期（1964-76 年）－原水爆禁止運動の分裂と**原爆報道**の登場

第 4 期（1977-85 年）－被爆体験の国際化の進展と**被爆者運動**の登場

第 5 期（1986-95 年）－放射線被曝体験＝チェルノブイリ原発事故（1986 年 4 月）

戦争体験＝アジア諸国からの戦争責任追及

第 6 期（1996-現在）－被爆体験の歴史化

II 被爆 60 年目の状況

- 1 平和行政の国営化、被爆者対策の変化（厚生省＋外務省）
- 2 運動（継続的な原水爆禁止運動と被爆者運動）の担い手の固定化と減少
- 3 被爆地における行事の多様化、イベント化——原爆報道の積極的関与

III 平和教育・被爆体験継承の現状と課題

現状＝関西学院大学との連携講座から

- 1 契機の必要性＝折鶴焼却事件
- 2 伝えられていない被爆体験＝関西学院大学と女学院の学生の差
- 3 伝わらない被爆体験＝過半数にのぼる「原爆投下はやむをえない」。
「同じような話」。

課題＝被害実態の解明が未完であることの確認

時間（60 年間）・空間（全国・海外）の拡大・対象（52 万 2664 人）

- 1 60 年間かけて構築された原爆文化（原爆報道を含む）のデータベース化
- 2 ネットワークの構築
60 年間かけて構築された枠組みの確認と活用方策

IV 原爆報道の今後